

**憲法しんぶん 速報版**  
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007  
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2018年5月31日 (木)  
 NO. 862号 本号3頁

## **与党、国民投票法改正案の質疑提案**

29日、衆院憲法審査会の与野党筆頭幹事が、憲法改正手続きを定めた国民投票法改正案の取り扱いを衆院議員会館で協議しました。自民党の中谷元氏は、審査会を来月7日に開き、改正案の趣旨説明と質疑を行うことを立憲民主党の山花郁夫氏に提案しました。それに対して、山花氏は他の野党の手続きの遅れを理由に困難との認識を示しました。

両者は今月31日の幹事懇談会開催では合意しました。与党側は来月5日に改正案を提出する方針で、野党に共同提出を呼びかけています。

何としても憲法審査会を動かしたい自民党は、公明党のよびかけに応え、国民投票法の改正に乗り出しています。17日の憲法審査会の前に開催された幹事懇談会に、共通投票所設置など改正公職選挙法で成立済みの7項目と、船舶乗組員による「洋上投票」の対象拡大、寝たきり状態の高齢者などが郵便で投票できる要件を緩和するなどを盛り込んだ8項目の改正案を提案しました。24日の幹事懇談会では、自公は野党各党が賛否を決めていない郵便投票の対象拡大を削り7項目とすることを打診しています。



一方、野党の立憲民主党、国民民主党は、国民投票運動中のテレビCMの規制強化する改正を求めています。そして、共産党、社民党は「憲法を議論する環境でない」と改正論議に反対の立場を示しています。

## **自民党、党利党略の参院選挙制度改革案を示す！**

参院自民党は30日、議員総会を開き、参院選の「合区」の対象県の候補者を救済する選挙制度改革案について執行部が説明しました。自民党の改革案は、参院の「1票の格差」を是正するとともに、「合区」で立候補できない県の候補者を比例代表で優遇するのが柱となっています。

公職選挙法改正による改革案は、①二つの県を一つの選挙区に残す、②比例区の定数4増、③候補者名による得票数が多い順に当選者が決まる現行の「非拘束名簿式」を維持したまま、政党があらかじめ決めた順位に従って当選者が決まる「拘束名簿式」を「特定枠」(上限2人)として導入、④特定枠の候補者は非拘束名簿式の候補者とは別枠で優先的に当選できる、とする内容です。

自民党は、合区で選挙区に候補者が出せない県の候補者を特定枠にあてる考えです。選挙区と比例区のいずれかで、各都道府県から最低1人ずつ選出できるようにする仕組みとしています。

また、埼玉選挙区の定数を2増やして「一票の格差」を3倍以内に抑えるとしており、比例代表4増も含めると6増えることとなります。

議員総会では目立った反対意見はなく、橋本聖子参院議員会長に取り扱いを一任しました。自民党は参院に置かれている改革協議会の6月1日の会合で案を他党に提示し、今国会での成立を目指す考えです。



### **野党5党の党首ら 参院選挙制度の自民改正案に反対で一致**

参議院の選挙制度をめぐって、立憲民主党など野党5党の党首らは、自民党が、「合区」となった県を救済するために目指している法改正は党利党略で認められないとして、反対する考えで一致しました。

立憲民主党、国民民主党、共産党、自由党、社民党の野党5党の党首と、衆議院の会派「無所属の会」の代表は、30日夜、都内で会合を開きました。この中で、参議院の選挙制度をめぐり、自民党が、「合区」となった県を救済するため、比例代表の一部にあらかじめ決めた順位に従って当選者が決まる「拘束名簿式」を選択できるようにする法改正を目指していることについて、党利党略で認められないとして反対する考えで一致しました。

また、来年の参議院選挙に向けて、出席者からは、定員が1人の「1人区」では、野党側の候補者を一本化すべきだといった意見が出されました。

会合のあと、立憲民主党の枝野代表は記者団に対し、「突然、全く合理性のない、自民党の都合で選挙制度まで私物化するかのような案が出回っており、こんな話にはつきあいきれないという点で一致した」と述べました。

## **6・10 国会前大行動の成功と、全国各地で連帯した行動を**

先週の愛媛県提出文書や財務省の新たな提出文書等で、改めて安倍首相夫妻が加計・森友疑惑に深く関与していたことが改めて明らかになりました。また、公文書改ざん、自衛隊の「日報」隠ぺい、麻生財務相のセクハラ発言問題等で、安倍政権に対する国民の不信と怒りが広がっています。しかし、安倍首相は国会の答弁では野党の質問にまともに答えず、はぐらかすばかりで前代未聞の事態を引き起こした自らの責任を認めようとしません。そればかりか、国会を20日ほど延長し、働かせ方改革、IR法、TPP等の悪法を今国会会期内成立させようとしています。

このようなもとの、国会最終盤に総がかり行動実行委員会などの「6・10 国会前行動実行委員会」は、「9条改憲NO！政治の腐敗と人権侵害を許さない 安倍政権の退陣を求める6・10 国会前大行動」を、下記のように開催します。何万という人々で、国会を包囲しましょう。

また、その国会前行動に連帯して、全国各地で様々集会・デモ等の行動を展開しましょう。



### **各地のとらきみ**

#### **徳島 「改ざん、隠ぺいの安倍内閣は感心せんね。戦争はいかん」**

徳島憲法共同センターは28日、徳島駅前では安倍9条改憲に反対する3000万人署名への協力を呼びかけました。21日から連日、取組んでいます。

県生活と健康を守る会連合会の竹田節夫事務局長は、「米軍の保管部隊として航空母艦まで持とうとする自衛隊が海外で戦争すれば大変なことになる」と指摘しました。阿南民商の土肥昭次事務

局長は「嘘とごまかし、セクハラ暴言で人権侵害を繰り返し、憲法を守らない安倍首相に憲法を語る資格はない」と訴えました。

署名した小松島市の山口幸代さん（47）は、「海外でテロが起こっていて不安です。戦争には反対です。9条改憲をいう安倍首相には早く代わってほしい」。徳島市の女性（86）は、「改ざん、隠ぺいの安倍内閣は感心せんね。戦争はいかん」と語りました。

## **青森** 中学生2人が耳を傾け、「9条を変えることには反対です」と署名

青森県の「戦争法の廃止を求める三八連絡会」は、24日から連日、街頭宣伝・署名に取り組んでいます。24日、26日は、八戸市の中心街で、27日には市内の「コープあおもり るいけ店」前で行い、「9条を守る署名」「安倍政権発議を阻止しよう」と市民へ署名協力を呼びかけました。

中心街での署名行動では、中学生2人が立ち止まり参加者の説明に耳を傾け、「9条を変えることには反対です」と署名しました。

コープ前で署名した市民は「安倍首相はダメだ。辞めさせなければ」と怒った口調で訴えました。同連絡会は、今月30日までひきつづき署名活動に取り組む計画です。

## **大阪** 退職教職員が総会で3000万人署名推進に決意を誓い合う

全国各地で退職教職員が元気に安倍9条改憲阻止に向けて、3000万人署名で奮闘しています。

大阪退職教職員の会（約6100人）は23日、「より輝いて生きよう」「憲法九条はみんなの宝」をスローガンに第28回総会を大阪市内で開催し、110人が参加しました。

久家英和会長があいさつし、森友問題の徹底究明で安倍政権と松井一郎知事を追い詰めようと呼びかけるとともに、3000万人署名では会員が地域の中心になって奮闘しているとし、「要求に応え、社会とのつながりをもつ活動を広げて行こう」と語りました。

石井佳宏事務局長が報告と提案を行い、特に2012年以降は要求に根ざした活動を発展させながら、9条改憲阻止や「大阪都」構想の住民投票、大阪府知事・大阪市長ダブル選、チャレンジテスト問題など大きな政治・運動課題にも挑戦してきたと強調しました。

地域から、平和バスツアーなど要求に基づく活動、3000万人署名推進への決意などの発言がありました。

活動方針と、大退教運動の前進を呼びかける総会アピールを採択。25周年記念昼食交流会で親睦を見深めました。

## **埼玉**でも退職教職員奮闘 障害児学校退職教職員の「筍の会」が学習会を開催

埼玉県南の障害児学校2校の退職教職員の会「筍の会」が28日、十数人が参加して憲法問題の学習会を開催しました。「筍の会」は2013年5月から年4回程度のペースで、「戦争と障害者」、「福島原発問題」そして「老後の生き方」等をテーマに、これまで16回学習会を開催して来ました。そして、17回目の28日は、「憲法をめぐる動きを学習しよう」と、メンバーと同じ障害児学校に勤務していた、憲法会議の高橋信一事務局長を招き、朝霞市で開催しました。

高橋氏は「安倍9条阻止に向けて、3000万人署名の成功を」とのテーマで、憲法パンフレット「憲法9条を変えて、『戦争する自衛隊』にしているのですか」を活用しながら、1時間30分報告。

その後、質疑と交流が行われました。その中では、日本会議の「ありがとう自衛隊キャンペーン」が話題となり、自衛隊員のお母さんが制服のまま、朝夕の保育園の迎えに行っていることが話題となり、「昔はそんなことはなかった。自衛隊が愛される自衛隊、地域に根差した自衛隊となるために、意識的にそうしているのではないか」との意見が出されました。また、二つの障害児学校が米軍跡地に建設され、隣が自衛隊だったため、学校と自衛隊間であった様々な出来事、たとえば生徒の目の前で行われた銃剣訓練など、が語り合われました。その中で、改めて自衛隊が憲法に明記される危険性を共通し、3000万人署名の成功に向け、奮闘し合うことを確認し合いました。